

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23251020

研究課題名(和文)現代インドにおけるメガ・リージョンの形成・発展と経済社会変動に関する研究

研究課題名(英文)Growth and Development of Mega-regions and Socio-economic Change in Contemporary India

研究代表者

岡橋 秀典 (OKAHASHI, HIDENORI)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：00150540

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代インドで急速に成長するメガ・リージョンの特徴について考察した。デリー大都市圏とその周辺地域におけるフィールド調査により、インドのメガ・リージョンは、個々の大都市圏を超えた存在であり、産業集積、都市化の経済の機能空間、中間層の消費空間として重要な役割を果たしていることが明らかになった。しかしながら、このようなメガ・リージョンの成長はインドの西部に偏っており、今後、全国的な地域格差の拡大をもたらすことが懸念される。

研究成果の概要(英文)：The research examined the characteristics of Mega-Regions which have rapidly grown in contemporary India. Our field survey in Delhi metropolitan region and its surrounding areas clarified that Indian Mega-Regions which are beyond individual metropolitan areas play an important role as industrial clusters, functional spaces of urbanization economy and consumption spaces of middle classes. The growth of Mega-Regions has been concentrated to the western part of India. Therefore it is expected to widen regional disparities.

研究分野：人文地理学

キーワード：インド 経済発展 大都市 メガリージョン 産業集積

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、インドはグローバル化の中で急速な経済成長をとげている。このようなインドの発展は、BRICs の一員とされるように世界的に高く評価され、多くの注目を浴びている。しかし、そこにいくつかの問題が存することも事実である。社会階層間の格差の拡大だけでなく、地域間に大きな格差が生じ、しかもそれが拡大していることが問題視されている。これは、国内で地域主義的傾向が強く、独立後長く地域間の均衡を重視してきたインドにとって、国家の存立にも関わる重大問題であると考えられる。

(2) 近年のインドの地域格差に関する議論は、専ら州を単位とした全国スケールでの定量的な研究によってなされてきた。このような州レベルの検討は地域格差拡大のメカニズムに迫るには不十分といえよう。究明されるべきは、このような地域格差拡大を生じている空間構造再編のあり方である。

(3) 現代インドでは、経済成長の下でナショナル、リージョナル、ローカル、様々なスケールで空間の再編が進んでいる。特に注目されるのは、急速な大都市の発展、産業集積の発展、都市農村間の結合の強化、都市ネットワークの発展などであり、これまでの都市/農村の分断構造から、大都市を核とした求心的な空間構造(中心・周辺構造)に移行しつつあるとみられる。しかしながら、インドの大都市については、研究が少ない。外国資本等による産業集積の形成と中間層の拡大などにより郊外空間が急速に発展し、大都市が急速に拡大している現状をふまえると、経済成長の原動力となっている空間を、大都市よりも、大都市を核としたより広域の集積地域で捉えることが適切と思われる。そこで、本研究では、メガ・リージョンという新たな空間概念にもとづき、インド経済発展の空間的基盤に迫ることにした。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、上記の問題意識から、現代インドのメガ・リージョンに焦点をあて、そこでの空間構造の特徴とそれともなう地域の経済社会変動を把握し、最終的にインドの経済発展を支える空間的な基盤を明らかにすることを目的とする。

(2) 現代インドにおいてメガ・リージョンという空間を重視する意義は以下の通りである。経済水準の格差が大きく、交通インフラの未整備な状況では、経済発展に資する地域的集積の意義がきわめて大きい。しかも、そのような集積は都市開発等々の新たな市場を生み、また発展の礎となるイノベーションを創出することになり、集積がさらなる集積を呼ぶことになる。このような動きは、既存の大都市を拡大させるだけでなく、それらが連担した広域の集積地域を出現させ、その意義を強めていく。

(3) このような認識に立ち、インドにおけ

るメガ・リージョンの存在形態を夜の光量データや統計資料を用いて把握したうえで、メガ・リージョンの内部構造を産業集積(工業、IT産業、大規模小売業)、都市空間(住宅・オフィス開発、郊外農村の都市化、地域ガバナンス)、イノベーション創出(人材供給、研究開発)の3点から検討し、地域の経済社会変動(発展)やナショナル、グローバルな変動と関連づける。メガ・リージョンの地域的波及構造をみるために、後背地空間をとりあげ、商業的農業、観光開発、流通システムなどから検討を行う。

(4) 主たる調査地域は、「デリー=ラホール」地域である。この地域は、首都デリーの大都市圏から、ハリヤーナー州、パンジャブ州を経て、国境に接するパキスタンのラホールに至る地域である。選択の理由は、インドのメガ・リージョンの中でも人口1億2千万人を数える最大集積であり、州別にみても最も経済的な水準の高い州から構成されること、中核となるデリーについて上述したようにこれまでに一定の研究蓄積を有することがあげられる。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、メガ・リージョンの実態把握に関わる重要事項について、それらを専門とする研究者を組織し、調査研究を進める。すなわち、メガ・リージョンの全体構造、産業集積の発展と構造、都市空間の発展と構造、後背地空間への波及構造の4つの領域に分けて研究する。

(2) メガ・リージョンの全体構造については、形成・発展とその構造的性質を把握するため、GISを用いてその広がりや形態を統計資料等により分析するとともに、他方、全国的な都市システムなどナショナルなスケールの中に位置づけ機能的連関を見る。産業集積の発展と構造は、メガ・リージョン形成の重要な基盤として、工業とICT産業に注目し、その立地状況と経済発展との関連を考察する。人的資源開発やイノベーションも分析対象とする。他方、消費市場としての重要性から大規模小売業の展開の実態も検討し、都市開発と関連づける。都市空間の発展と構造では、大都市内部と郊外地域に分けて大都市の構造変動を把握するとともに、都市化地域のガバナンス(統治)の変化、郊外農村の都市化と社会変動に焦点を当て、地域社会の性質を明らかにする。メガ・リージョンはその経済的集積の大きさから周辺の後背地域にも大きな影響を与える。地域格差の大きいインドの場合、このような波及効果の検討が重要である。

4. 研究成果

(1) 本研究は、現代インドの経済発展を促進し、その一方で地域格差問題をもたらしめている空間構造の性質を、大都市を越えた広域集積地域としてのメガ・リージョンに焦点を当

てて考察するものである。

(2) 現代インドでは、急速な大都市の発展、産業集積の発展、都市農村間の結合の強化などの空間的变化がみられ、産業集積の発展と中間層の増加により郊外空間も急速に拡大している。こうした状況からみると、経済成長を牽引する単位である「中心」は、単体の大都市よりも、それらを核としたより広域の都市集積+産業集積として捉えることが適切と思われる。この空間こそがここで注目するメガ・リージョンである。メガ・リージョンは、都市群とそれらの周辺の郊外地域が一体となった多核的な集積であり、そこでは労働力と資本がきわめて低コストで再配分される。

(3) インドではメガ・リージョンとして3地域が想定される。「パンジャブ=デリー」、「ムンバイ=プネー」、「バンガロール=チェンナイ」であるが、それらの比較考察により「パンジャブ=デリー」は最も面積が狭いが最も人口密度が高くまた都市化も進んでいて、メガ・リージョンとしての実質を持つことが判明した。それゆえ、「パンジャブ=デリー」を主たる対象地域として、実証的研究を進めた。

(4) その結果、以下の点が明らかとなった。

メガ・リージョンは、次のような独自の構造と機能をもつと想定できる。それは異なる業種が集まることから生ずる都市化の経済とともに、産業集積において同一業種が集中することから生ずる地域的集中(局地化)の経済を併せ持つ。また、集積の経済にとどまらず地理的分散の利益も存する。企業は、集積の経済に依存する先端部門だけでなく、生産拠点までもメガ・リージョン内部に立地させ、土地取得費や労働費の節約によって効率のよい分業体制を構築する。経済自由化後の工業化の中心を担う民間部門は、このようなメガ・リージョンへの立地指向を強めている。それゆえ、メガ・リージョンの成長は今後も続き、国内の地域格差問題が深刻化することが予想される。

メガ・リージョンは低開発地域にも影響を与えていることが明らかとなった。北部インドのウッタラーカンド州の大部分は山岳地域であり、零細な農業を中心とする低開発地域であった。2000年の州独立後、経済自由化の中で、ウッタラーカンドの工業化は急進展する。地理的分散の利益を目的とした生産拠点の立地である。中央政府により特別カテゴリー州として優遇され、ヒマラヤ山岳地域向けの産業政策が実施されたことが大きい。州が意欲的に工業開発政策を実行した結果、山麓部で大規模な工業開発が進行した。州内総生産は大きく伸びた。この事例のように工業化は低開発地域にも及んでいる。工業化の進まない山岳地域の状況は、多くの「ヒンディー・ベルト」諸州とも共通しており、国土の均衡ある発展がこれからの国家的重要課題となろう。

(5) 以上のように、現代インドの空間構造は、メガ・リージョンに代表されるように集積に焦点を当てる必要がある。インドでは経済的な地域格差が大きく、交通インフラの整備も遅れているため、経済発展に資する建造環境の意義がきわめて大きい。それを担うのが都市集積として的大都市である。そのような都市は中間層を中心とする新たな消費市場を生み出し、また発展の基礎となるイノベーションをも創出する。そのため、集積はさらなる集積を呼ぶことになる。このような累積的動きは、既存の大都市を拡大させるだけでなく、複数の大都市(都市集積)を核として形成された産業集積群の領域的なネットワークを出現させ、地域的分業と地域経済循環の活発化によりその意義を強化する。このようにして、メガ・リージョンが新経済空間としての実体をもつようになるが、その一方で、メガ・リージョンから離れた地域は停滞を余儀なくされ、地域間の格差拡大と固定化が大きな問題となるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計21件)

岡橋 秀典、日本の地理学におけるインド地域研究の展開-1980年代以降の成果を中心に-、広島大学現代インド研究空間と社会、査読有、4巻、2014、1-14
Okahashi, H.、Transformation of India's Underdeveloped Regions during Economic Growth Period Focusing on Uttarakhand、Journal of Urban and Regional Studies on Contemporary India、査読無、Vol.1、2014、pp.13-23

友澤 和夫、インド自動車産業集積の比較研究-デリー首都圏とウッタラーカンド州を事例として-、現代インド研究、査読有、4巻、2014、23-52

由井 義通、デリー首都圏地域における開発計画の変遷と郊外開発の実態、日本都市学会年報、査読有、47号、2014、55-62
宇根 義己、インド北部山岳州における工業開発と工業集積-ヒマチャル・プラデーシュ州バッドイ地域を事例として-、地理科学、査読有、69巻、2014、1-16

Okahashi, H.、Development of Contemporary India Area Studies as Part of Geographical Studies in Japan since the 1980s、Geog. Rev. Japan B、査読有、vol.86、No.1、2013、pp.40-51

日野 正輝・由井 義通・宇根 義己・RAMDANI, F.、膨張するデリー大都市圏の郊外開発、季刊地理学、査読有、65巻、2013、112-113

友澤 和夫、デリー首都圏における工業化の最前線-ラージャスターン州アルワル県における工業開発と日系専用工業団地

- 、広島大学現代インド研究-空間と社会-、
査読有、3、2013、17-29
Kuwatsuka K., Spatial expansion of ICT
service industries to
non-metropolitan areas in India、龍谷
大学経営学論集、査読有、53、2013、16-32
宇根 義己、インドのテキスタイル・パー
ク、アジ研ワールド・トレード、査読無、
19巻、5号、2013、6-9
宇根 義己、経済成長下のインド山岳州に
おける社会経済指標の空間的特性-ウッ
タラーカンド州とヒマチャル・プラデ
ーシュ州を事例に-、広島大学現代インド
研究-空間と社会-、査読有、3巻、2013、
31-45
SAWA, M., Spatial Reorganisation of
the Indian Community Crossing Border :
A Case Study of the Global City Tokyo、
人文地理、査読有、65巻、2013、508-526
土屋 純、デリー首都圏 (NCR) における
ショッピングモールの発展と外資系小売
業の参入、広島大学現代インド研究 - 空
間と社会、査読有、3巻、2013、31-45
岡橋 秀典・南埜 猛・澤 宗則・スッパイ
ヤー、S.P., インドにおける地理学の発
展と課題、地学雑誌、査読有、121巻、
2012、874-890
岡橋 秀典、現代インドの空間構造と地域
発展-メガ・リージョン研究に向けて、広
島大学現代インド研究 空間と社会、査
読有、2巻、2012、1-15
友澤 和夫、インド自動車部品工業の成長
と立地ダイナミズム、広島大学現代イン
ド研究-空間と社会-、査読有、2巻、2012、
17-33
由井 義通、ヒルステーション・シムラに
おける都市発展、都市地理学、査読有、7
巻、2012、73-82
鎌塚 賢太郎、インド地方都市における
ICTサービス産業開発と立地企業の特徴-
ウッタラーカンド州デヘラドゥーンの
経験、広島大学現代インド研究-空間と社
会-、査読有、2巻、2012、89-102
森 日出樹、インド・西ベンガル州におけ
る2011年州議会選挙-左翼戦線政権の長
期支配とその崩壊の要因、広島大学現代
インド研究 空間と社会、査読有、2巻、
2012、75-88。
岡橋 秀典、新興経済大国・インドにおけ
る低開発地域の変貌-ウッタラーカンド
州の事例から、広島大学大学院文学研究
科論集、71巻、査読無、2011、99-110
21 由井 義通、インドの辺境工業開発地域に
おける都市開発-ウッタラカンド州ル
ドラプルを事例として、都市地理学、査読
有、2011、53-62

[学会発表](計52件)

岡橋 秀典、インドの経済発展と空間構造
の変動-メガ・リージョンの台頭、2015

- 年日本地理学会春季学術大会、2015年3
月29日、日本大学(東京都)
日野 正輝・宇根 義己、インドにおける
都市化と都市システムの再編、2015年日
本地理学会春季学術大会、2015年3月29
日、日本大学(東京都)
友澤 和夫、インド自動車産業の発展と産
業集積、2015年日本地理学会春季学術大
会、2015年3月29日、日本大学(東京
都)
宇根 義己、インド繊維・アパレル産業の
空間構造と産業集積、2015年日本地理学
会春季学術大会、2015年3月29日、日
本大学(東京都)
鎌塚 賢太郎、インドにおけるICTサー
ビス産業の地方分散と中小企業の参入機
会、2015年日本地理学会春季学術大会、
2015年3月29日、日本大学(東京都)
由井 義通、大都市の発展と郊外空間-メ
ガシティ・デリーの郊外開発-、2015年
日本地理学会春季学術大会、2015年3月
29日、日本大学(東京都)
森 日出樹、郊外農村の社会経済変動 デ
リー近郊グルガオンの1農村の事例から
、2015年日本地理学会春季学術大会、
2015年3月29日、日本大学(東京都)
宇根 義己、デリーにおける婚礼用衣服の
流通構造、2014年度HINDAS(広島大学現
代インド研究センター)第4回研究集会、
2014年8月9日、広島大学(広島県)
日野 正輝・由井 義通・宇根 義己・V.R.
Sharma・F. Fatwa、デリー南郊における
アーバン・ビレッジの居住者特性、2014
年日本地理学会秋季学術大会、2014年9
月20日、富山大学(富山県)
宇根 義己、経済成長下のインドにおける
婚礼用伝統衣服の流通構造 デリーのサ
リー類卸売業を事例に、2014年日本地理
学会秋季学術大会、2014年9月20日、
富山大学(富山県)
日野 正輝・由井 義通・宇根 義己・V.R.
Sharma・F. Ramdani、デリー南郊におけ
るアーバン・ビレッジの居住者特性、2014
年日本地理学会秋季学術大会、2014年9
月20日、富山大学(富山県)
宇根 義己・友澤 和夫、デリーにおけるイ
ンフォーマルな工業労働市場の形成 ム
スリム地区ジャミア・ナガールの零細織
維工場を事例に、2014年人文地理学会
大会、2014年11月9日、広島大学(広
島県)
日野 正輝・由井 義通・宇根 義己、デリー
南郊におけるアーバンビレッジの居住者
特性、2014年日本地理学会秋季学術大会、
2014年9月20日、富山大学(富山県)
Kuwatsuka, K., Location Strategies and
Spatial Expansion of ICT Service
Industries to Non-Metropolitan Area in
India, IFSAM 2014 World Congress in
Tokyo, Sep 3, 2014, Meiji University.

- 森 日出樹「グルガオンにおける土地収用と農民の対応 1 農村の事例から」2014 年度 HINDAS 第 4 回研究集会、2014 年 8 月 10 日、広島大学（広島県）
- 楯塚 賢太郎、インド企業の海外展開 新興国多国籍企業論に注目して、2014 年度 HINDAS 第 4 回研究集会、2014 年 8 月 10 日、広島大学（広島県）
- 友澤 和夫、工業化と非正規化-I MT マネサールの工業労働市場-、2014 年日本地理学会春季学術大会、2014 年 3 月 28 日、国土館大学（東京都）
- 宇根 義己・友澤 和夫、インドにおける「もう一つの工業化」-デリーのムスリム地区ジャミア・ナガルにおける繊維生産、日本地理学会 2014 年春季学術大会、2014 年 3 月 27 日、国土館大学（東京都）
- 宇根 義己、インド・デリーにおける繊維業の空間的特性-ジャミア・ナガルを事例に-、国際金融・経済研究会、2014 年 2 月 26 日、福岡大学（福岡県）
- 友澤 和夫、インド自動車産業の成長と空間構造、2013 年度経済地理学会関西支部例会、2013 年 12 月 7 日、龍谷大学（大阪府）
- 21 宇根 義己、デリーにおける都市型産業集積の発展-Jamia Nagar の縫製業を事例に-、人間文化研究機構・現代インド地域研究 2013 年度国内全体集会、2013 年 11 月 23 日、東京大学（東京都）
- 22 Okahashi, H., Why Mega-Regions in contemporary India?, IGU Kyoto Regional Conference, 2013 年 8 月 6 日、京都国際会議場（京都府）
- 23 Tomozawa K., Forefront of the expanding industrial agglomeration in the national capital region of Delhi, IGU Kyoto Regional Conference, 2013 年 8 月 6 日、京都国際会議場（京都府）
- 24 Yui, Y., Complexity of growing mega-regions in contemporary India, 2013 年 8 月 6 日、京都国際会議場（京都府）
- 25 Kuwatsuka K., Expansion or decentralization?: spatial dynamics of ICT service industries in India, IGU Kyoto Regional Conference, 2013 年 8 月 6 日、京都国際会議場（京都府）
- 26 Tsuchiya, J., The developments of shopping malls and entry of foreign retail capital in Delhi National Capital region, IGU Kyoto Regional Conference, 2013 年 8 月 6 日、京都国際会議場（京都府）
- 27 Une Y., Spatial structure of the apparel industry in the National Capital Region, India, IGU Kyoto Regional Conference, 2013 年 8 月 6 日、京都国際会議場（京都府）
- 28 友澤 和夫、インド自動車産業の成長と産業集積、2013 年度 HINDAS 第 2 回研究集会、2013 年 6 月 29 日、広島大学（広島県）
- 29 森 日出樹、郊外農村の社会経済変動 - デリー近郊グルガオンの 1 農村の事例から -、2013 年度 HINDAS 第 2 回研究集会、2013 年 6 月 29 日、広島大学（広島県）
- 30 梅田克樹、インド・デリー首都圏における牛乳供給システム、日本地理学会春季学術大会、2013 年 3 月 29 日、立正大学（埼玉県）
- 31 日野正輝・由井義通・宇根義己・Fatwa Ramdani、膨張するデリー大都市圏の郊外開発、東北地理学会 2012 年度 第 3 回研究集会・東北都市学会研究集会、2013 年 2 月 2 日、東北大学（宮城県）
- 32 Kuwatsuka, K., The decentralization of ICT service industries to non-metropolitan India, INDAS International Conference 2012, 2012 年 12 月 15 日、東京大学（東京都）
- 33 土屋純、デリー首都圏（NCR）におけるショッピングセンターの発展と外資系小売業の参入、2012 年度 HINDAS 第 3 回研究集会、2012 年 10 月 27 日、広島大学（広島県）
- 34 宇根 義己、インドの地方都市における繊維産業集積の形成-マハーラーシュトラ州イチャルカランジの事例、経済地理学会西南支部例会、2012 年 8 月 10 日、広島大学（広島県）
- 35 梅田克樹、インド・NCR における酪農・乳業の分布にみられる地域の特徴、2012 年度 HINDAS 第 1 回研究集会、2012 年 7 月 7 日、広島大学（広島県）
- 36 宇根義己・楯塚賢太郎：インド北部におけるメガ・リージョンの空間的形態 統計データと「夜の光」からのアプローチ、2012 年度 HINDAS（現代インド地域研究広島大学拠点）第 1 回研究集会、広島大学、2012 年 7 月 7 日、広島大学（広島県）
- 37 友澤 和夫、インド工業空間論私論-メガ・リージョン研究の深化に向けて-、2012 年度 HINDAS 第 1 回研究集会、2012 年 7 月 7 日、広島大学（広島県）
- 38 宇根 義己・楯塚 賢太郎、インド北部におけるメガ・リージョンの空間的形態-統計データと「夜の光」からのアプローチ-、2012 年度 HINDAS 第 1 回研究集会、2012 年 7 月 7 日、広島大学（広島県）
- 39 友澤 和夫、デリー-NCR における工業化の最前線-ラージャスターン州アルワル県における工業開発-、地理科学学会 2012 年度春季学術大会、2012 年 5 月 26 日、広島大学（広島県）
- 40 宇根義己、インドの後進州における工業団地開発と企業集積メカニズム-ヒマール・プラデーシュ州ソラン地域を事例として-、日本地理学会現代南アジア研

- 究グループ研究集会、2012年3月29日、首都大学東京（東京都）
- 41 宇根 義己、インドにおけるテキスタイルパークの開発、経済地理学会西南支部例会、2011年10月8日、北九州市立大学（福岡県）
 - 42 岡橋秀典・鋤塚賢太郎、現代インドの空間構造と産業集積 メガ・リージョンとICTサービス産業、2011年度現代インド地域研究広大拠点第7回研究集会、2012年2月5日、広島大学
 - 43 鋤塚 賢太郎、インド地方都市におけるICT産業の成長機会と「人材プール」、経済地理学会関西支部例会、2011年10月1日、京都教育大学（京都府）
 - 44 友澤 和夫、インド自動車部品工業の成長と立地特性、2011年度HINDAS第3回研究集会、2011年8月10日、広島大学（広島県）
 - 45 友澤和夫、インド自動車部品工業の成長と立地特性-ACMA刊行Source India 2011を資料として、2011年度現代インド地域研究広大拠点第3回研究集会、2011年8月10日、広島大学（広島県）
 - 46 友澤和夫、インド工業化の空間構造-デリー首都圏の自動車産業集積に着目して、2011年度現代インド地域研究国内全体集会、2011年11月27日、広島大学（広島県）
 - 47 澤 宗則、インドの郊外農村の社会変動、2011年度現代インド地域研究国内全体集会、2011年11月27日、広島大学（広島県）
 - 48 鋤塚賢太郎、インド地方都市におけるICT産業の成長機会と「人材プール」、経済地理学会関西支部例会、2011年10月1日、京都教育大学（京都府）
 - 49 宇根義己、インドにおけるテキスタイルパークの開発、経済地理学会西南支部例会、2011年10月8日、北九州大学
 - 50 宇根義己、インドにおける日系企業の立地パターン、2011年度現代インド地域研究広大拠点第3回研究集会、2011年8月10日、広島大学（広島県）
 - 51 岡橋秀典、経済成長に伴う山岳農村の変貌-就業面を中心に、2011年度現代インド地域研究広大拠点第2回研究集会、2011年7月2日、広島大学（広島県）
 - 52 鋤塚賢太郎、州都デヘラードゥーンへのICT産業立地とボトルネック、2011年度現代インド地域研究広大拠点第2回研究集会、2011年7月2日、広島大学（広島県）

〔図書〕(計 2件)

- 岡橋 秀典 他、海青社、現代インドにおける地方の発展-ウッタラーカンド州の挑戦、2014、279
- 岡橋 秀典 他、東京大学出版会、現代インド4 台頭する新経済空間、2015、325

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡橋 秀典 (OKAHASHI, Hidenori)
 広島大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：00150540

(2) 研究分担者

日野 正輝 (HINO, Msateru)
 東北大学・大学院理学研究科・教授
 研究者番号：30156608

溝口 常俊 (MIZOGUCHI, Tsunetoshi)
 名古屋大学・大学院環境学研究科・名誉教授

研究者番号：50144100

由井 義通 (Yui, Yoshimichi)
 広島大学・大学院教育学研究科・教授
 研究者番号：80243525

澤 宗則 (SAWA, Munenori)
 神戸大学・大学院・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：40235453

友澤 和夫 (TOMOZAWA, Kazuo)
 広島大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：40227640

森 日出樹 (MORI, Hideki)
 松山東雲女子大学・人文科学部・教授
 研究者番号：00309717

梅田 克樹 (UMEDA, Katsuki)
 千葉大学・教育学部・准教授
 研究者番号：20344533

鋤塚 賢太郎 (KUWATSUKA, Kentaro)
 龍谷大学・経営学部・准教授
 研究者番号：40346466

土屋 純 (TSUCHIYASU, Jun)
 宮城学院女子大学・学芸学部・教授
 研究者番号：80345868

(3) 連携研究者

中條 暁仁 (NAKAJO, Akihito)
 静岡大学・教育学部・准教授
 研究者番号：40432190

宇根 義己 (UNE, Yoshimi)
 金沢大学・人間社会研究域・講師
 研究者番号：40585056